

経済レポート

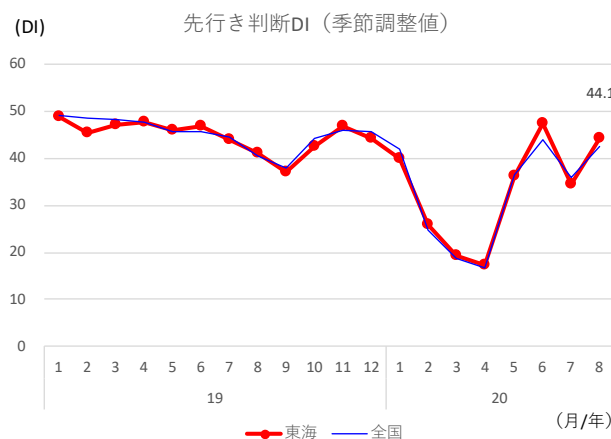
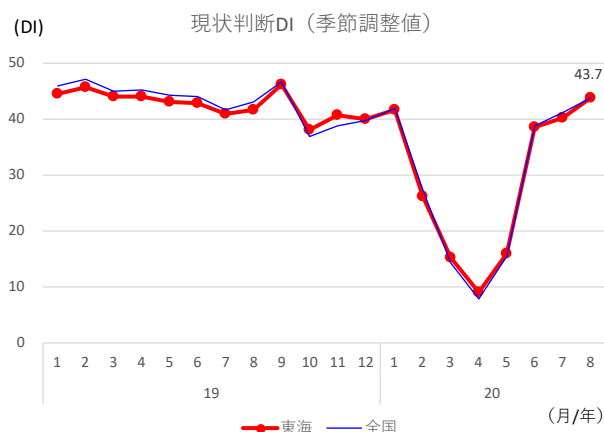
景気ウォッチャー調査(東海地区:2020年8月)

～ 現状判断、先行き判断ともに上昇 ～

調査部 主任研究員 塚田裕昭

- 9月8日に内閣府が公表した「景気ウォッチャー調査」によると、東海地区の8月¹の

**現状判断DI(季節調整値)は、前月差+3.6ポイントの43.7と4ヵ月連続で上昇した。
先行き判断DI(季節調整値)は、前月差+9.8ポイントの44.1と2ヵ月ぶりに上昇した。**



- 当社では、東海地区の景気ウォッチャーの見方を

新型コロナウイルス感染症の影響による厳しさは残るものの、持ち直しの動きがみられる。先行きについては、持ち直しへの期待がみられるものの、厳しい状態がしばらく続くとの見方が多い。

とまとめた。

(前月のまとめ)

「新型コロナウイルス感染再拡大により、景況感の改善ペースが鈍化している。先行きについても、感染再拡大への懸念から改善期待が低下している。」

- 内閣府では、全国調査での景気ウォッチャーの見方を

新型コロナウイルス感染症の影響による厳しさは残るものの、持ち直しの動きがみられる。先行きについては、感染症の動向を懸念しつつも、持ち直しへの期待がみられる。

とまとめている。

(前月のまとめ)

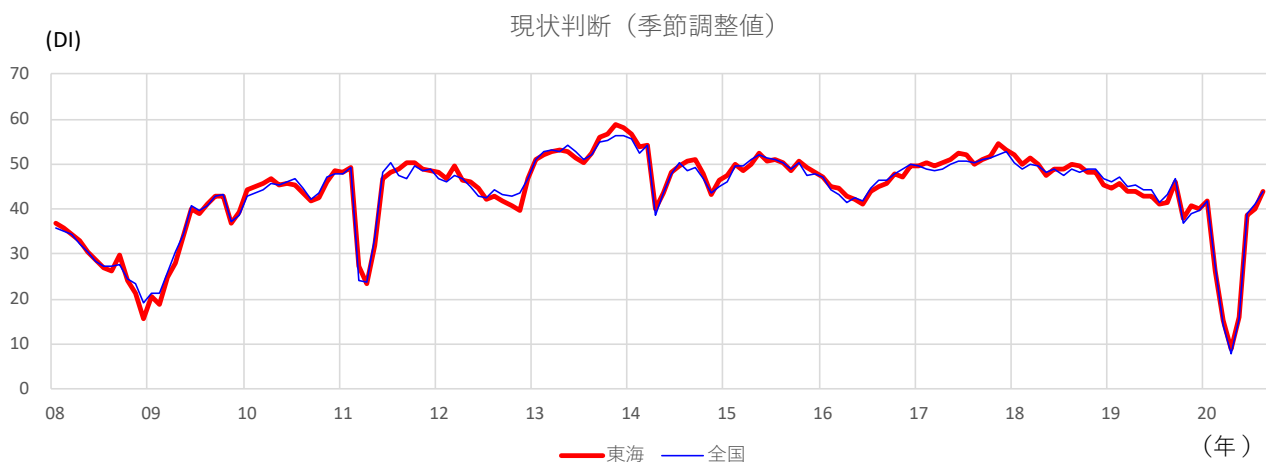
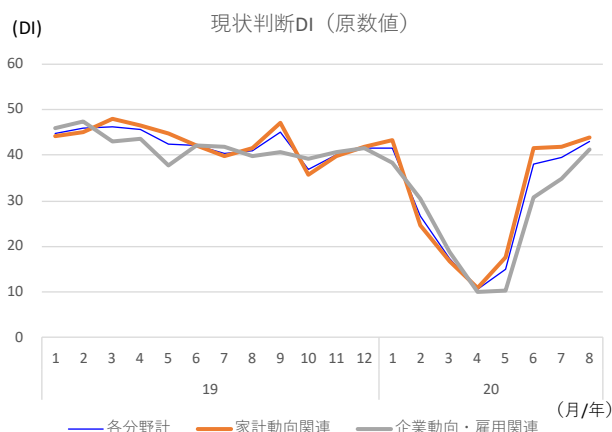
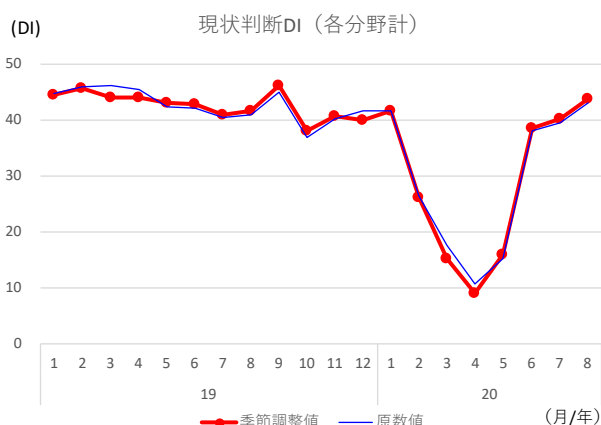
「新型コロナウイルス感染症の影響による厳しさは残るものの、持ち直しの動きがみられる。先行きについては、持ち直しへの期待がみられるものの、感染症の動向に対する懸念が強まっている。」

¹ 調査期間は毎月25日～月末

1. 景気の現状判断(3ヶ月前との比較、方向性)

(1) DIの動向

- 3ヶ月前と比較しての景気の現状に対する判断DI² (季節調整値)は、前月差+3.6ポイントの43.7と4ヶ月連続で上昇したが、横ばいを示す50を29ヶ月連続で下回った。悪化方向の回答(「やや悪くなっている」「悪くなっている»)が減少し、「変わらない」が増加した。改善方向の回答数(「やや良くなっている」「良くなっている»)は前月と変わらず。
- 部門別に見ると(原数値)、家計動向関連(小売、飲食、サービス、住宅関連)DIは、同+2.1ポイントの43.9と4ヶ月連続で上昇したが、横ばいを示す50を28ヶ月連続で下回った。また、企業動向関連と雇用関連からなるDI³は、同+6.3ポイントの41.2と4ヶ月連続で上昇となったが、横ばいを示す50を21ヶ月連続で下回った。



² 本調査のアンケート・サンプル総数は229、うち家計関連152、企業・雇用関連77。以下、先行き判断についても同様。

³ 企業動向関連と雇用関連からなるDI (原数値)は、内閣府HPに掲載されている地域別の各分野合計値から家計動向関連の値を除いた上で、「景気ウォッチャー調査」のDI算出方法に従って当社調査部にて試算した。

(2) ウォッチャーのコメントから読み取る景気動向

(注) コメント引用部左側の記号は以下の通り

◎:良くなっている、○:やや良くなっている、□:変わらない、▲:やや悪くなっている、×:悪くなっている

【家計動向関連】

- 8月は愛知県で県独自の緊急事態宣言が発出された。国の緊急事態宣言下であった5月と比べても「変わらない」との回答や「やや悪くなっている」「悪くなっている」との声も多い。悪化方向の回答減によりDIは改善していても状況は厳しい模様だ。

□	百貨店（総務担当）	・県独自の緊急事態宣言が発出されたことで、外出自粛やお盆の帰省等の移動も少なく来客数が減少傾向にあり、売上も回復傾向とはなかなかいえない。ただし、駅前立地でもあることから日々の固定客は確保でき、売上のレベル感は低いが底堅い。
□	百貨店（販売担当）	・新型コロナウイルスの第2波により県独自の緊急事態宣言が出て以降、客足は予想以上に減少し、売上は前月比80%である。新作の投入により来客が少ないなかでも購入はみられたが、1か月を通して厳しい状況だった。
□	観光型ホテル（支配人）	・3か月前が最悪な営業結果であったため、それに比べればほんの少し回復しているものの、前年比でやっと30%を超えたところである。これで4か月連続、従前にはなかった営業損益となっている。今月は県独自の自粛宣言も解除されず、学校も夏休み短縮のため授業が始まり、ますます来客の見込みは薄れている。
×	その他専門店〔雑貨〕（店長）	・繁華街でのクラスター発生を受けた県独自の緊急事態宣言により、地区の集客が激減した。解除された後も後遺症が残り、熱中症の心配とあいまって、客足が遠のいている。

- Go To Travel キャンペーンについては、効果はあっても厳しい状況が続いているようだ。

○	旅行代理店（営業担当）	・3か月前と比べると、新型コロナウイルス禍に違いはないが、店舗自粛や客のステイホームがなくなったことと、Go To Travelキャンペーンで経済活動を回すように政府が進めているお陰で、少しずつ旅行申込みは発生している。しかし、前年同月の売上や営業利益と比べると70%ダウンの状態である。
□	旅行代理店（経営者）	・新型コロナウイルスの影響で旅行部門は前年比5%以下である。Go To Travelキャンペーンが始まって、客自体が勤め先から県外移動禁止や貸切りバス乗車禁止などの制約があり、販売が伸びていない。

【企業動向・雇用関連】

- 3か月前と比べると改善しているが、前年の水準まで戻ってはいないとの声が散見される。

◎	輸送用機械器具製造業（総務経理担当）	・前年同月と比べると売上は達してはいないが、3か月前のどん底であった時期と比べると8割ほど増加した。これは完成車メーカーが生産を始めたからである。
○	輸送業（エリア担当）	・新型コロナウイルスが世間をにぎわせ始めた頃から、荷物量、受注量に注目してきた。8月のお盆明けくらいから1日当たりの取扱物量が前年と肩を並べてくる日が増えてきた。まだ連続して前年を上回することは少ないが、徐々に回復し、今まで下がってきていたのが上向いてきた感じがある。
○	会計事務所（職員）	・3か月前と比較すれば、受注も増加し売上は回復傾向にある一方、前年同月比で見ると、やはり新型コロナウイルスの影響による自粛等の影響で、前年の売上を下回っている。

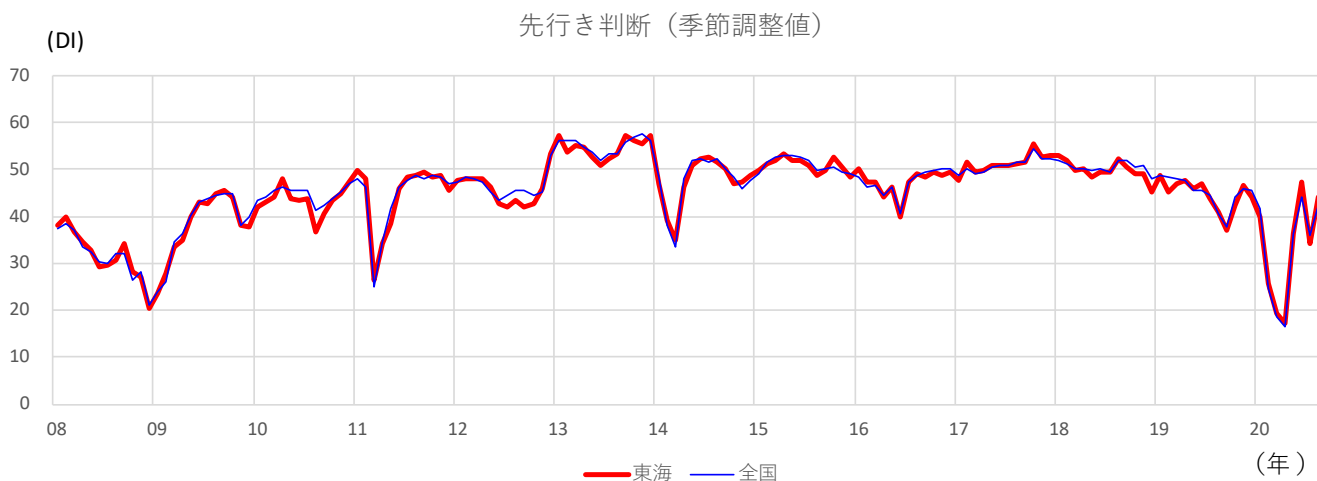
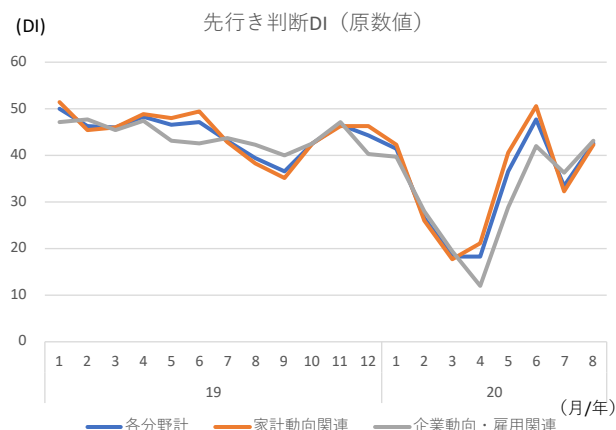
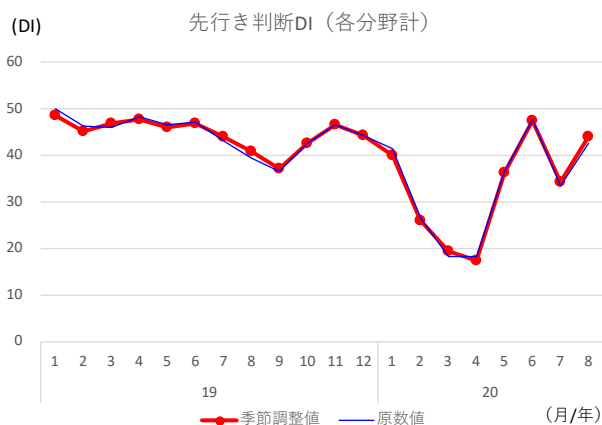
- 雇用は一部改善もみられるが、全般的には厳しいとのコメントが多い。

○	アウトソーシング企業（エリア担当）	・自動車関連は回復基調にあるが、最大手のメーカー以外は鈍い。
▲	人材派遣会社（営業担当）	・新型コロナウイルスの影響もあり、製造業の主要客からの引き合いは停滞し、今月の所属拠点での新規業務開始者はゼロとなっているため、3か月前より景気がやや悪くなっている。
×	人材派遣会社（営業担当）	・前年同月比で求人数は2割減に対し、求職者数は3割増加しているが、求人・求職のミスマッチにより新規契約数は落ち込みが大きい。

2. 景気の先行き判断（2～3ヶ月先の見通し、方向性）

（1）DIの動向

- 2～3ヶ月先の景気の先行きに対する判断DI（各分野計：季節調整値）は、前月差+9.8ポイントの44.1と2ヶ月ぶりに上昇したが、横ばいを示す50を23ヶ月連続で下回った。「やや悪くなる」「悪くなる」との回答が減少し、「やや良くなる」「変わらない」が増加した。7月に高まったコロナウイルス感染再拡大の動きが8月は落ち着いてきたことがDIの再上昇につながったと考えられる。
- 部門別に見ると（原数値）、家計動向関連（小売、飲食、サービス、住宅関連）DIは、同+10.2ポイントの42.3と2ヶ月ぶりに上昇したが、横ばいを示す50を2ヶ月連続で下回った。企業動向関連と雇用関連からなるDIは、同+7.0ポイントの43.2と2ヶ月ぶりに上昇したが、横ばいを示す50を23ヶ月連続で下回った。



(2) ウォッチャーのコメントから読み取る景気動向

(注) コメント引用部左側の記号は以下の通り

◎:良くなる、○:やや良くなる、□:変わらない、▲:やや悪くなる、×:悪くなる

【家計動向関連】

▶ 先行きについてはコロナウイルスの感染動向次第という声がほとんどである。

○	百貨店（総務担当）	・新型コロナウイルスの影響が続くと想定されるが、感染者数も減少傾向にあり、来客数も一定程度見込める。残暑のなか、秋物のスタートにとっては厳しい状況である。
○	乗用車販売店（経営者）	・全体的に様子見の状況は続いているが、新型コロナウイルスと向き合いながらも動いていく感じにはなってきているので、これ以上の広がりがないければ、徐々に回復していくのではないかと。
□	商店街（代表者）	・いまだ新型コロナウイルスの終息がみえず、このままの状態が続きそうである。
□	百貨店（経理担当）	・新型コロナウイルス感染症のピークアウトとともに、景気は緩やかながら改善に向かう一方、9月末で雇用調整助成金の特例措置が打ち切られると、企業の倒産や失業者の発生を招き、改善に向かう景気にブレーキを掛けることになると考える。
□	乗用車販売店（経営者）	・新型コロナウイルスの感染が再拡大するリスクもあり、消費行動は消極的な状態が続くと思われる。
×	一般小売店〔酒類〕（経営者）	・今後、新型コロナウイルス終息後も、街の飲食店への人の流れは以前のように戻らない。消費の流れが大きく変わってくると考える。

【企業動向・雇用関連】

▶ 自動車関連の戻りを指摘する声が複数みられる。

○	化学工業（営業担当）	・自動車関係の景気が戻り始めている。9月以降は容器の販売にも影響してくる見込みである。
○	輸送用機械器具製造業（総務経理担当）	・中国市場の自動車販売が増加しているため輸出が増加し、現在よりは生産台数が増えて、景気が良くなると思う。
○	アウトソーシング企業（エリア担当）	・自動車関連においては、国内の販売数も回復し、特に新型車種の売行きが好調である。中国や北米向けの輸出も上向きに推移し、やや良くなると見込む。

▶ 今後も変わらず厳しいという声も多い

□	一般機械器具製造業（営業担当）	・北米での新型コロナウイルス感染拡大が収束しない限り、積極的な設備投資が実施されるとは思えない。
□	輸送用機械器具製造業（品質管理担当）	・航空業界は、新型コロナウイルスが終息し米国経済が復活するまでは厳しいと思われる。
□	輸送業（エリア担当）	・先行きの景気は変わらない。新型コロナウイルスはまだ収束しておらず、産業によっては落ち込んでおり、その部分が物流に影響しているため見通しが立たない。
□	人材派遣会社（営業担当）	・まだまだ新型コロナウイルスの影響で求人は増えないと思われる。その反面、派遣で働いている人々には将来への不安から転職を希望する人が増え、有効求人倍率は下がると考えている。
□	職業安定所（所長）	・雇用調整助成金の申請はまだ多くの企業で続いており、新型コロナウイルス感染症の影響により、先行きは不透明である。

景気ウォッチャー調査について

- 景気ウォッチャー調査は、内閣府が月次で公表する景況調査で、百貨店売場担当者、タクシー運転手、企業経営者など地域の景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々に景気の方角性、水準についての見方を回答してもらい、その結果を集計公表するサーベイ調査である。
- 調査は毎月、当月時点であり、調査期間は毎月 25 日から月末である。
- 調査対象の職種によって、「家計動向関連」、「企業動向関連」、「雇用関連」に区分し、区分毎に、集計結果を公表している（地域別は各分野計、家計動向関連のみ公表）。
 - 「家計動向関連」：商店街代表者、百貨店担当者、タクシー運転手、美容室従業員など
 - 「企業動向関連」：製造業経営者、非製造業経営者など
 - 「雇用関連」：人材派遣会社社員、職業安定所職員など
- 主な調査項目は、次の 3 項目。
 - (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
 - (2) 景気の先行きに対する判断（方向性）
 - (3) 景気の現状に対する判断（水準）
 (1) (2) については、判断の理由についても回答を求めている。
- 上記調査項目について、下記の 5 段階の判断を求め、回答結果をもとにそれぞれ点数を与え、これを各回答区分の構成比に乗じて D I を算出している。回答者全員が「変わらない」と答えた場合、D I は 50 となるため、D I = 50 が景気の横ばいを示すこととなる。

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
評価	良くなる (良い)	やや良くなる (やや良い)	変わらない (どちらとも いえない)	やや悪くなる (やや悪い)	悪くなる (悪い)
点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

(出所) 内閣府HP

- 全国各地の地域ブロック毎に集計・分析をおこなっており、東海地区は、岐阜、静岡、愛知、三重の 4 県が対象となっている。

※調査の詳細については、内閣府 HP、「景気ウォッチャー調査」報告書をご参照ください。

－ ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡下さい。